

山陽新聞夕刊

【一日一題】

【総合医療センター】

「なぜ、何のために」

岡山市病院事業管理者、岡山市立市民病院長 松本健五

「なぜ、何のために」を5回繰り返し、答えを繋いでいけば、複雑、困難な問題も整理され解決の糸口がつかめるものです。日常の仕事、社会の出来事、政治にいたるまで原点、物事の本質を見失わないことが肝要です。

岡山総合医療センター（仮称）においても同様です。市立病院の今後のありかたを考える上で「なぜ、何のために」を繰り返した結果、最終的には、市民の安心の砦、すなわち、断らない救急医療、よき医療人の育成、教育、そして新型インフルエンザなど健康危機管理機能を持った病院であることにたどり着いたのです。公共性と経済性の両立を大前提とし、それを具体化するため、岡山大学と岡山市が、今後実施する連携事業を盛り込んだ「保健医療連携に関する協定」を締結するに至りました。センターの特徴である岡山型ER（救急外来）は重症度、罹患臓器、年齢にかかわらず救急医がまず救急患者を診療する岡山の特性にあった救急医療機能のモデルです。ER医は各科の業務を兼任せず3交代で救急外来に専任します。手術、入院患者、専門外来には関与しないのです。疲弊する救急現場にとってこれは、画期的なことで、医師にとっても患者さん、市民にとっても有り難いことです。同時に、地域医療、救急医療を志す学生、医師への教育・育成にも大きく貢献します。「言うは易く行うは難し」と困難も指摘されますが、実現に向けてこの四月から準備を始めています。

皆さまも、いちど立ち止まって、今、気になることに対して「なぜ、何のために」を5回繰り返し、自問自答してみてはいかがですか？「なぜ、何のために今何々しているの？」から始めたら最後はどんな結論になりますか？ これも脳トレーニングの一種です。